

▼編集後記

青井阿蘇神社 福川宮司が、ある冊子に寄稿した記事が目にとまりました。「古事記の冒頭には『稽古照今』（けいこしょうこん）と書かれています。いにしえを考えて今を照らすということです。本質を変えてはいけません。陰と陽、古いものと新しいものは相反するのではなく、調和することで何かを生み出せるのです」。同氏はさらに「普遍的なもののや心をつないでいくことを神社として大事にしたい」とも。今年のおくち祭りには平日にも関わらず多くの若者が継承部として参加しベテランに混じって汗を流していました。新旧が調和し心をつないでいく、これこそがこの地域の魅力なのかもしれません。<K.T>

この会報のお問合せは

溝口幸治事務所

人吉市駒井田町1952-34

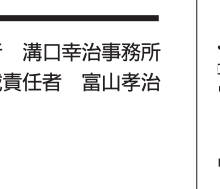
tel 0966-22-5800
fax 0966-22-5802
<http://www.k-mizoguchi.com>
E-mail:office@k-mizoguchi.com



発行 溝口幸治事務所
 記載責任者 富山孝治

みぞぐち幸治後援会 所在地

ACCESS MAP





プリンシパリティスタジアムは
収容74,500人
ヨーロッパ最大のスタジアム

ウェールズラグビー協会を訪問し 意見交換及び世界レベルのスタジアム プリンシパリティスタジアムを視察



地域の小さい子どもから75歳の高齢者までが所属するラグビークラブが約300あり、学校、地域で盛り上げる仕組みができており、ここでは改めてラグビー先進国におけるラグビー文化が存在することを再認識しました。

England Rugby Travel・クレアロンドン事務所 JNTOロンドン事務所訪問 及び 在ロンドン熊本関係者意見交換会

イギリスからの日本訪問の第一義はラグビー観戦ということを忘れてはいけません。その上で試合がない日の過ごし方への情報提供を行う必要があり、他の試合が観戦できる環境、ファンゾーン、ホテル、パブ等。それに加え、日本らしいもの、伝統的なものとの組み合わせを検討すべきことに気づかされました。また、SNS等を駆使した情報提供を早急に検討する必要があると感じました。



オクシタニ地域圏スポーツ省 モンペリエハンドボールチーム訪問

スポーツ省では、県全体の特徴などをアピールしながらできるだけ多くの方々に訪問してほしいとプレゼンしたところ、イベントで来るお客様にはまずは大会に関する情報提供(競技場アクセス、時間、各国のチームの練習会場等)をすることが大事との指摘を受けました。日本の情報はオリンピック組織委員会のHPから得ているようで、このHPを起点に熊本県からの情報提供手段を検討する必要がある、ハンドボール愛好者や会員にしっかりと情報提供することが大事だと感じました。

在フランス大使館・クレアパリ事務所・ JNTOパリ事務所訪問及び在パリ熊本関係者意見交換

フランスから来日するためには、それなりにお金がかかりますが、意見交換の中で特徴的なものや、神秘的な場所が好まれるという事が分かりました。この様な事を踏まえて、我々がもう一度考えなければいけないことは、誰に来て欲しいか、お金がかかることをどう乗り越えるのか、競技を見にきて欲しいのか、観光に来て欲しいのか、情報収集分析が必要だと感じました。



一言で言えば「ターゲットを絞って戦略的に取り組む」この言葉を念頭に置きながらもう一度戦略を練り直す必要性を痛感する視察となりました。少なくともイギリス・フランスからの誘客はラグビーとハンドボールでははっきりと分けて考えるべきで、特にハンドボールで多くのサポーター、観客が訪れるとは考えにくいと感じました。



木村一等書記官・阿部三等書記官

JETRO 小篠春彦バンコク事務局次長 JICA 三宅次長・三好、酒井企画調査員 現状説明と意見交換会

海外からタイへの投資は日本が36.2%とダントツに多く、ASEANの中で日本からの輸出・輸入、そして観光客もタイが1番多いですし、2017年5月時点で日系企業も5,444社(3年前に比べ877社増)活躍しています。製造業に加え、近年は理美容業等、コンサルタント、人材派遣業等、日系企業へのサービスを提供する企業が増加しており、タイにおける産業人材育成の必要性を実感しました。日タイ産業人材育成協力イニシアチブについても、今後の取組が上手くいくことに大いに期待したいと思います。



MUSASHI AUTOにて 増尾一幸社長・井上秀樹ディレクターを訪問しました。

1987年設立、2つの工場があり、1508人の従業員、日本人は6人駐在されていました。タイ人は給与重視、少しでも高いところに転職する傾向にあるようで、日本への研修や留学を進めるのも企業側としては慎重にならざるを得ません。従業員募集も厳しい状況にあるとのことでした。但し、四輪、二輪を中心に会社がタイには集積しており、経済環境は整っているので全体的には好調を維持しておられました。

マレーシア空港株式会社社長から現状説明後、意見交換会

マレーシア国際空港での民営化状況の取組は国内にある29空港が管理されており、空港内にショッピングモールが同居しているようなイメージです。空港利用者だけではなく一般人がショッピングや食事に訪れる空間づくりが印象的でした。空港から首都クアラルンプールまでは車で約1時間、鉄軌道を利用すれば約30分で移動できます。熊本空港の場合でも商業スペースをいかに設けるか、アクセス状況を改善できるのか、大きな課題であることを再認識するとともに、旅行に関する情報源としてSNS・ブログ・ネット・TV旅行番組などを活用する重要性を改めて感じました。



JETROクアラルンプール
梶田朗事務所長・重松氏を訪問



AAH 社長説明と現地視察

2017年11月より、マレーシアのハラル方式を取り入れた日本産牛肉輸出施設で屠畜された日本産牛肉の輸出が可能となりました。現在、マレーシア政府より承認されゼンカイミート(株)(熊本県錦町)、(株)にし阿波ビーフ(徳島県)が輸出しています。ゼンカイミートはAAH日本というマレーシアの輸入業者を使っています。量を増やして輸送コストを下げるができるか、ブッチャーのカット技術向上など、現状として様々な課題は残りますが、今後、ゼンカイミートと県や人吉市や錦町とも協力しながらプロモーション、人吉市への加工施設建設の可能性等を検討することも必要であると感じました。